第２回世羅町下水道事業経営審議会　会議録

日時　令和８年 10 月 16 日（金）　13：30～15：30

場所　世羅町役場　本庁２階　第１会議室

出席委員　尾崎会長、山口副会長、垣内委員、吉本委員、上野委員、薮花委員
本郷委員、髙橋委員

事務局　　広山上下水道課長、畠中上下水道係長、小林主任

内容　　１.開会
２.会長あいさつ
３.審議事項
４.事務連絡
５.閉会

配布資料　【説明資料】世羅町下水道事業経営審議会（第２回）
【参考資料】下水道使用料　類似団体比較

概要

１．開会

２．会長あいさつ

３．審議事項

（事務局）

【説明資料】に基づき前回審議会の振り返り及び今回審議事項について説明。

（委員）

集落排水使用料について、当初の金額設定のまま１回も改定されていないという認識でよいか。

（事務局）

ご指摘のとおり。

（委員）

世羅町の下水道使用料は全国的に見ても高い部類になっている。今審議会で２つの使用料を見直すのか、集落排水使用料を見直すのか考え方を問う。

（事務局）

集落排水使用料を現在の人頭制から従量制へ移行すること。料金の設定をどのように考えるかということ。この２つがポイントになってくる。

下水道使用料は全国的にも高い水準にあり、更なる引き上げは難しいと捉えており、負担の公平性の観点から集落排水使用料をどの程度に設定するか。また、利用者の理解が得られるかに重点を置いて検討してもらいたいと考えている。

（委員）

料金の引き上げによって、未収金が増えることが無いよう対応してもらいたい。

（事務局）
　引き続き未収金の解消に努める。

（委員）
　経費回収率100％を目指す改定なのか。

（事務局）
　100％を目指す改定は現実的ではない。一般会計からの基準外繰り入れを減らし、経営の改善に向けた改定を行いたい。

（委員）
　改定案Ａは下水道使用料と同一の料金だが改定案Ｂ・Ｃ・Ｄの基本料金はどのように算出したのか。

（事務局）
　平均改定率から逆算して算出した額である。

（委員）
　集落排水使用料だけの改定なのか、下水道使用料も含めた改定なのか。

（事務局）
　集落排水使用料改定の検討となる。

（委員）
　料金は一度に上げるのか。それとも段階的に上げるのか。

（事務局）
　上げ方も含めてご審議いただきたい。

（委員）
　値上げをするにあたって、使用料改定に伴う経費はどのくらいかかるのか。

（事務局）

料金システムの改修等は必要となるが、それ以外の事務的経費についてはあまりないものと考えてもらって構わない。

（事務局）

農業集落排水利用者の世帯人員は1人から3人が全体の8割を占めており、それぞれの世帯人数での平均的な使用水量を算出している。大部分は3人までの世帯ということで検討してもらいたい。

改定案についてA案からD案まで提示している。人頭制から従量制への移行を基本とし、A案が改定の上限と位置付けている。

経営改善と負担の公平性の両面を考慮しつつ、利用者の急激な負担増を避ける形でご検討いただきたい。

（委員）

いずれ下水道使用料と同一の料金になるのであれば、5年ほどかけて毎年上げていってはどうか。

（事務局）

必ずしも下水道使用料と同一の料金にしなければいけとは考えていない。

（委員）

下水道使用料と比較しているが下水道使用料も改定が必要な時期が来るのではないか。

（事務局）

ご指摘のとおり、下水道使用料についても物価上昇や人口減少などで将来的には検討が必要になる。

（委員）

集落排水を使用されている委員の方にお尋ねしますが、今ご負担されている料金についてはどのように思われているか。

（委員）

利用者としての感覚でいうと今まで改定もなく、下水道使用料については知らなかったので高いとか安いとか考えたことはなかった。

（委員）
　下水道使用料に近づけば良いとは思うが、1度に上げるのは難しいと思う。

（委員）
　下水道の基本料金について、自治体によってばらつきがある要因は何か。

（事務局）
　事業規模や人口密度など様々な要因が考えられる。都市部であれば使用人数が多いので基本水量を低く設定し、実際の使用水量に応じた加算としているところもある。
　人口の少ないところで事業を行う場合には、必ず生じる固定経費を賄うため、基本料金を高めに設定する傾向がある。

（議長）
　様々な意見を聞く中で、今審議会で下水道使用料まで議論していくことはできないだろうと考える。まず大枠として集落排水使用料を人頭制から従量制に変えていくということには合意するものとしてよろしいか。

（委員一同）
　異議なし。

（委員）
　最終的には下水道使用料と同一料金とするのか。

（事務局）
　審議会の答申として示された内容を踏まえて検討する。

（議長）
　事務局には次回審議会で各案の詳細なシミュレーション資料の準備をお願いする。
　その上で改定率をどの程度にするのか、スケジュールをどうするのかを議論し答申を作成していく。
　以上を今回審議会のまとめとする。